文部科学省研究開発指定校事業の取組を発信するニュースレター

2021.10

研究開発だより Vol.4

「光輝（かがやき）」で資質・能力を働かせ，輝いている子どもたちの様子をお届けいたします！

幼小接続期の取組（３歳児～２年）

めざす子どもの姿　互いに高め合う環境の中で共創の喜びを感じながら，広い視野から知性を磨き，挑戦する気概をもち続けて，社会の発展に貢献する高い志をもつ子ども

3つの次元	躍動する感性	レジリエンス	横断的な知識
資質・能力	幼小中１２年間で育成する「多様性社会の中で『生きてはたらく力』」		
	・人間味溢れる豊かな感覚 ・自ら学ぼうとする姿勢	・粘り強く取り組む力 ・コラボレーションする力 ・複眼的に思考する力	・知識と知識を関連付けながら深く追究する力 ・論理的に問題を解決する力

本学校園で設定している子どもの姿をめざして，幼小接続期で取り組んでいることを紹介します。

３歳児の実践より

５月頃から年長児の影響を受けて始まった『色水・石けん遊び』ですが，夏休み明けも遊びが続いています。以前までは園庭にあるお花を使って色水を作っていましたが，最近ではお花だけではなく色が出そうな実を見つけて試してやってみようとする姿が見られるようになりました。ある日，「これってなんかジュース(色水)が作れそう！」と言い，園庭にある黒い実を潰して色水を作り始めました。「見てみて！紫になったよ！」と嬉しそうに先生や友達に教えてくれます。さらにそれを見ていた子どもが**「石けんと混ぜてみたらどうなるかね？」**と言い，色水に石けんを混ぜて作り始めました。紫色の色水はだんだんと青色に変化し，それに気付いた子どもが**「見てー！ぶどうジュースじゃなくて，サイダーになったよ！」と色の変化に驚いていました。**それを周りで見ていた子ども達も「すごいね！大発見だね！」と目を丸くして顔を見合わせます。**友達の影響を受けて心動かしながら色々なことを試したり，気付いたりしながら夢中になって**遊んでいます。

4歳児の実践より

夏休み明け，休み前に年長児がしていた「ウォータースライダーをつくりたい！」という声があがりました。ウォータースライダーは築山で年長組さんが遊んでいたところに入れてもらったため，自分たちでやったことはありませんでした。築山にホースでそのまま水を流して滑ろうとしますがなかなか滑れません。「どうしようか」と一緒に考えていると，クラスの子がやって来て，「年長組さんはホースを持ってたよ！」と教えてくれました。ホースを持っても上手くは流れませんでしたが，数名が集まり，段ボール箱を持ってきて滑ってみたり，年長組さんにどうやって流していたかを聞きに行ったりして，**友達と話し合いながら試行錯誤する姿**が見られました。この日は思ったようにできなかった子ども達ですが，「また明日もしたい！」と次の日も別の方法で挑戦してみようとする姿もありました。**一人では難しいことも，友達と思いを出し合って一緒に考えるとどんどん面白くなっていくことを感じて**遊んでいます。

5歳児の実践より

５歳児では，子どもたちの興味から**忍者ごっこ**が始まりました。①壁のぼりの術　②立ち滑りの術　③はしご渡りの術　④上り棒の術・・など，自分たちで修行の内容を考えながら園庭を巡っています。もちろん，すぐに成功することもあれば，失敗もたくさん繰り返します。すると，「こうしたらいいよ」とコツを教える姿や「〇〇ちゃんがんばって～！」と応援する姿，友達の体を支えて補助する姿が見られ，**友達と協力しながら目標に向けて諦めずに頑張る姿**が見られています。また衣装や身に付けるものも自分たちで作って忍者になりきるなどイメージを広げて楽しんでいます。夢中で忍者修行を楽しむ中で，**小さな失敗体験と成功体験を積み重ねる**ことが子どもたちの**自信**となり，**「諦めなければできるんだ，失敗は成功のもと！」と思える**レジリエンスが少しずつ育まれていっています。

①

②

③

④

広島大学附属三原学校園（幼稚園・小学校・中学校）
〒723-0004 広島県三原市館町二丁目6番1号
HP:https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara

HPも今すぐチェック！

アンケートにご協力ください

研究開発だより

2021.10 Vol.4

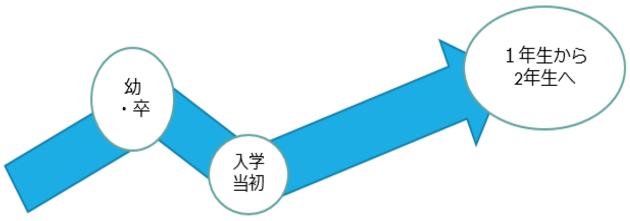
◆ 幼小接続期（３歳児～２年）で大切にしていること

幼小接続期ではこれまで,子どもたちにとって,幼稚園から小学校への環境の変化がつまずきとなっている状況を改善することに取り組んできました。また，光輝の実践を積み重ねる中で，子どもたちが幼稚園までに経験してきた主体的な学びを大切にして活動できるよう,小学校でも教師側が子どもたちの思いや願いを大切にしながら,子どもと関わっていくことが重要であると考え，現在取り組んできています。幼小接続期の教師がお互いに参観して，幼小接続期段階の子どもたちの様子を知り，定期的に集まって指導や援助について考えます。校種が違っても幼稚園と小学校の教員が共通理解した上で，幼稚園での学びをなだらかなつながりの中で育てようと，下記の姿を大切にして実践しています。

大切にしている姿

（子ども）　失敗する　ぶつかる　振り返る　成長の実感

（教師）　実態に合った提示　待つ　個々の願いの尊重　見守る



Ｉ年生の実践より

入学以来，自分たちを常に見守り続けてきてくれた５年生のペアさんともっとなかよくなりたいという子どもたちの思いや願いを引き出し，Ｉ年生主催でＩ・５交流を実施しました。**自分たちがやりたいことを話し合って決めたり，実現に向けて協力して取り組んだりする**ことを通して，これまでの経験や知識を生かして考えたり，試行錯誤しながら最後まで粘り強く取り組んだりする課題解決の方法を学ばせたいと考えました。当日は，暑さのために屋外での活動が禁止となり，急遽変更を余儀なくされましたが，「ペアさんとなかよくなれた」「喜んでもらえた」「ありがとうと言ってくれた」など，自分たちの思いをペアさんに受け止めてもらえたことに満足していました。また，「自分たちの力でできた」「自ら伸びよができた」「みんなよくがんばった」など，自分たちの成長や達成感を感じていました。初めて学年全体で取り組んだ「光輝（かがやき）」の学習を通して，**友達と協力して自分たちの力で学校生活を創り出し，みんなで学習することの楽しさを味わう**ことができました。

2年生の実践より

2年生は,**これまでの経験や各教科の学習と結びついた様々な活動**の中から，CMづくりに子どもたちが活動を決め,取り組んでいます。生活科で育ててきた野菜の成長や体育で行った鉄棒あそび,おすすめの本の紹介など,**子どもたち自身がＩ～６年生に伝えたいことをCMにして見てもらおうと**活動を進めています。他学年に見せる前に,クラスで出来上がったCMを見合いました。「早口すぎてよく聞こえない」「何を伝えたいのかよく分からない」などの感想から,自分たちがうまく伝えられていると思っていたCMが,他グループの友だちには伝わっていないことに気付きました。**落胆しつつも，他グループから「説明を短くして絵を入れたらいいんじゃない？」等とアドバイスを貰うと，「そうすればいいのか」と口々につぶやき，各グループで工夫し始めました。**このように，子どもたちが上手くいかなかったことを経験しながら，それでも課題を解決しようと互いに意見を出し合い，**粘り強く取り組む姿**が見られています。これから，工夫したCMをＩ～６年生に見てもらうのが楽しみです。

※個人情報の取り扱いにはご注意ください。

Hiroshima University Schools Mihara

広島大学附属三原学校園（幼稚園・小学校・中学校）
〒723-0004 広島県三原市館町二丁目6番1号
HP:https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara

HPも今すぐチェック！

アンケートにご協力ください